



凡例 Symbols & Abbreviations

● 1783年(天明三年)噴火がつくった地層
The 1783 eruption

Ada 鎌原土石なだれ
Kambara debris avalanche
泥と岩が混然一体にまざり合った堆積物。黒岩を特徴的に含む。表面に小さな流れ山が散らばる。1783年8月5日に鬼押し溶岩の先端から発生して高速で北方に流れ下り、そのまま吾妻川に流入した。

Abt 鎌原熱雲
Kambara blast
(鎌原熱雲の等厚線)
ガラス質の砂礫からなる堆積物。鬼押し溶岩の先端で1783年8月5日10時に起こった激しい爆発で飛散した。爆発中心から離れるにしたがって規則的に細かく薄くなる。

Aig 吾妻火砕流
Agatsuma ignimbrite
堅く溶結した火砕流堆積物。ひび割れた球形の赤い岩塊が表面に集積している。1783年8月4日午後、山頂火口から北側に向かって数回流れ広がった。行く手を鬼押し溶岩に妨げられて東西に流れ分けた。

Aif 鬼押し溶岩
Oni Oshidashi lava flow
1783年8月2日午後、前掛火口から北側に流れ出した溶岩。噴煙柱から落下した赤い軽石や釜山スコリア丘の一部を表面に乗せている。火口からの流出は8月5日朝までに終了したが、完全に停止するまで数週間かかった。

Hlf 仏岩の溶岩
Lava of Hotokeiwa cone
浅間山第二世代の火山体。複数枚の厚い溶岩からなる。

Ild 小浅間溶岩ドーム
Ko Asama lava dome
2万0800年前に東山腹に出現した溶岩ドーム。直前に白糸軽石を噴出した。

Jld 離山溶岩ドーム
Hanareyama lava dome
雲場熱雲が噴出した火道に栓をした溶岩ドーム。東西に少し流れ広がった。

Jbt 雲場熱雲
Kumoba blast
やや発泡した砂礫からなる薄い堆積物。2万2050年前に軽井沢一帯を焼き尽くした。

Kda 塚原土石なだれ
Tsukabara debris avalanche
黒斑山が2万4300年前に崩壊して生じた土石なだれ。赤岩を特徴的に含む。応桑、南軽井沢、佐久平に展開した堆積物表面には大きな流れ山が多数みられる。吾妻川に流入した土石は関東平野に達して前橋・高崎地域の台地をつくった。

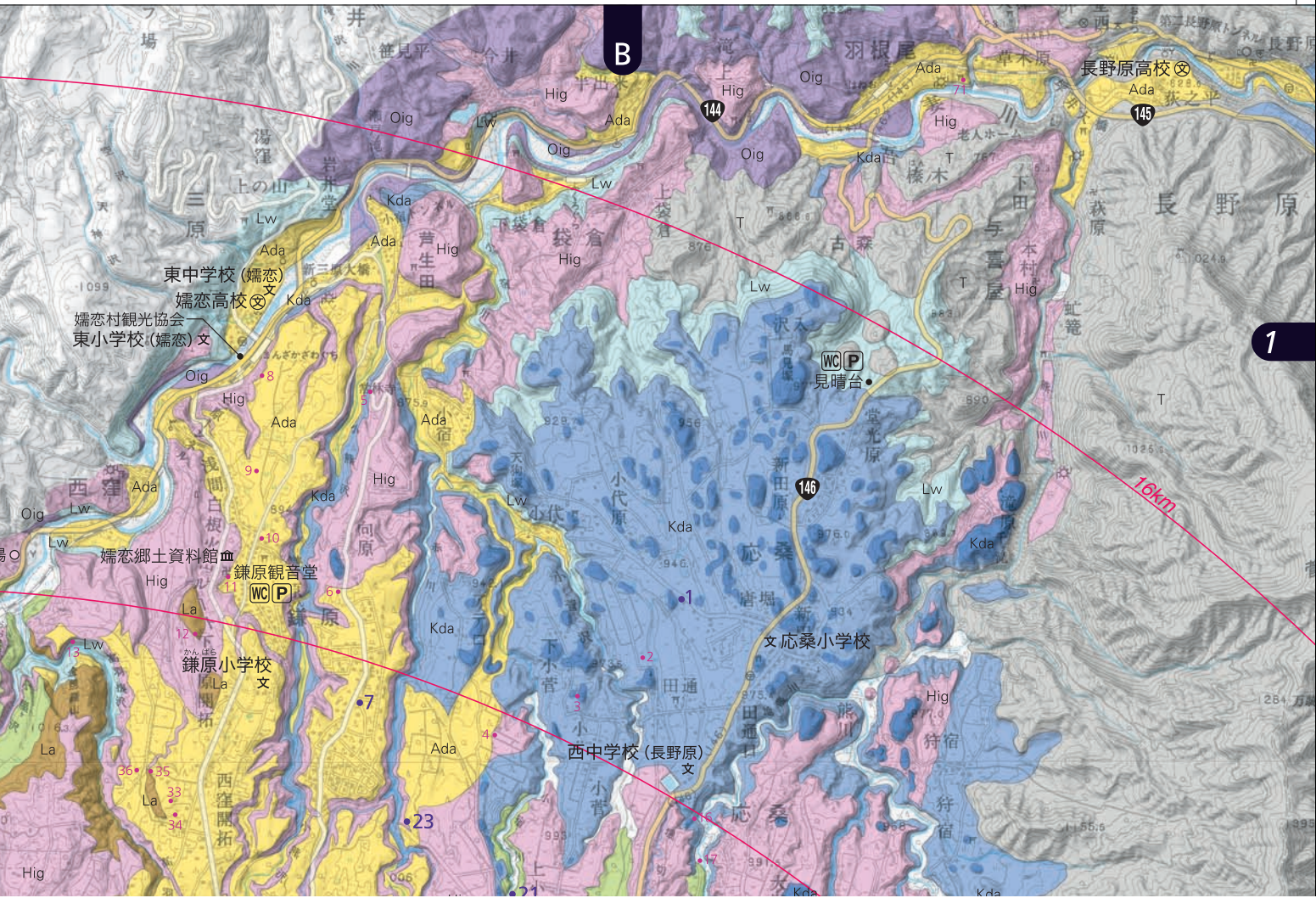
Kcn 黒斑山
Kurofu cone
浅間山第一世代の火山体。2万4300年前に崩壊して東半分を失った。湯ノ平に面した半円形の急崖にその内部構造がよく露出する。石尊山は黒斑山の一部だとみられる。

その他 Others
● 火山弾
Volcanic bombs
— 山頂火口中心からの距離
Distance from the center of the summit crater

● 1・12 観察地点
Points of interest
大きな紫数字で示した観察地点は、裏面フィールドガイドに解説がある。小さな赤数字で示した観察地点は、『浅間火山北麓の2万5000分の1地質図』に解説がある。

一般情報
文 学校 博物館・資料館
P 公共駐車場 WC トイレ

1



2

1783年噴火で山頂に出現したスコリア丘。プリニー式噴煙柱から落下した軽石が前掛火口内に集積してつくれた。高温のため変形してつぶれている。北側は鬼押し溶岩の流路と重なったために欠けている。

氷期のあとに浅間山がつくれた地層
Post-glacial period

Big 追分火砕流
Oiwake ignimbrite

Bスコリア下部を降させたプリニー式噴煙柱が崩れて発生した火砕流の堆積物。おそらく1108年8月30日。浅間山の南北に分布する。蛇堀川を下った流れは少量だったが、小諸市加増まで達した。キャベツの形をした青黒色の岩塊を含む。弱く溶結している箇所もあるが、そうでないところも多い。

Cig C火砕流
Ignimbrite C

北麓の小滝沢と濁沢に小さく露出する火砕流堆積物。溶結している。3世紀末に噴火した。

氷期に浅間山がつくれた地層
The last glacial period

F 扇状地
Volcanic fan

大雨のたびに蛇堀川や大窪沢などが溢れて扇状地を拡大した。大笹だけは平原火砕流より古いが、その他の地域では平原火砕流以降も拡大を続けた。

Glf 前掛山の溶岩
Lava of Maekake cone

浅間山第三世代である前掛山は1108年の追分火砕流に全山を覆われたが、溶岩がなす急崖にはその堆積物が残らなかった。上の舞台溶岩は1108年の噴火で、下の舞台溶岩と円山溶岩は3世紀末のC噴火で生じたと言われることがあるが、確かではない。

Hlh 平原火砕流直後のラハール
Post-Hirahara lahar

平原火砕流堆積物が水流によって再堆積してつくれた地層。南麓の岩村田で広い面積を占める。北麓にもあるが、小規模なので図示していない。再堆積は噴火後100年程度で落ち着いた。

Hig 平原火砕流
Hirahara ignimbrite

浅間山の四周に分布する淡黄色の火砕流堆積物。南麓では小諸城址や佐久インターチェンジ周辺に、北麓では吾妻川南岸や大屋原に高い崖をつくって露出するが、溶結作用はほとんどみられない。黒斑山、仏岩、そして姥ヶ原の緩斜面には薄く広がっている。高温の火砕流堆積物が河川水と接触して起こった二次爆発の堆積物が吾妻川沿いに分布する。

3

Basement of Asama

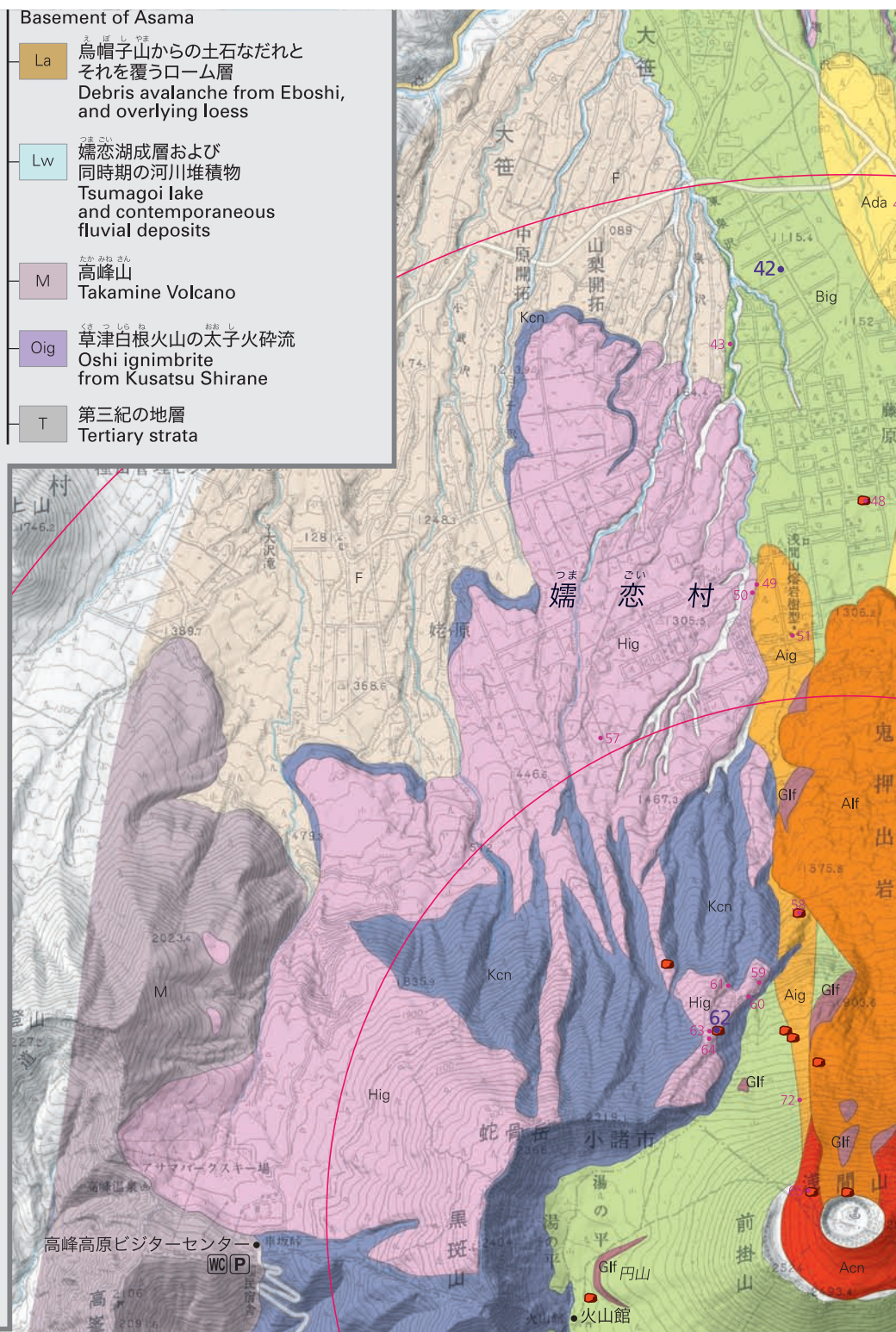
La 烏帽子山からの土石なだれとそれを覆うローム層
Debris avalanche from Eboshi, and overlying loess

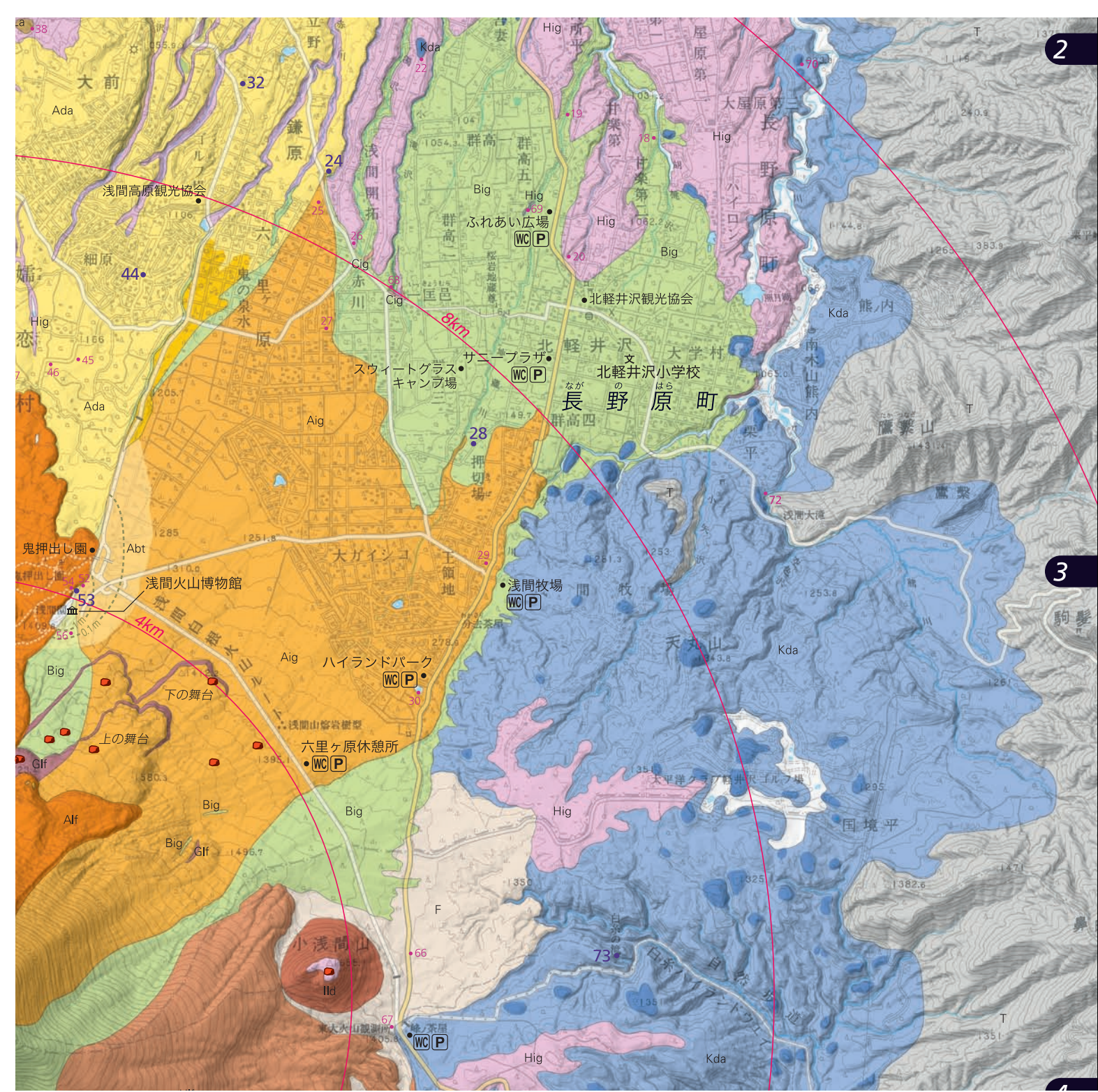
Lw 孺恋湖成層および同時期の河川堆積物
Tsumagoi lake and contemporaneous fluvial deposits

M 高峰山
Takamine Volcano

Oig 草津白根火山の太子火砕流
Oshi ignimbrite from Kusatsu Shirane

T 第三紀の地層
Tertiary strata

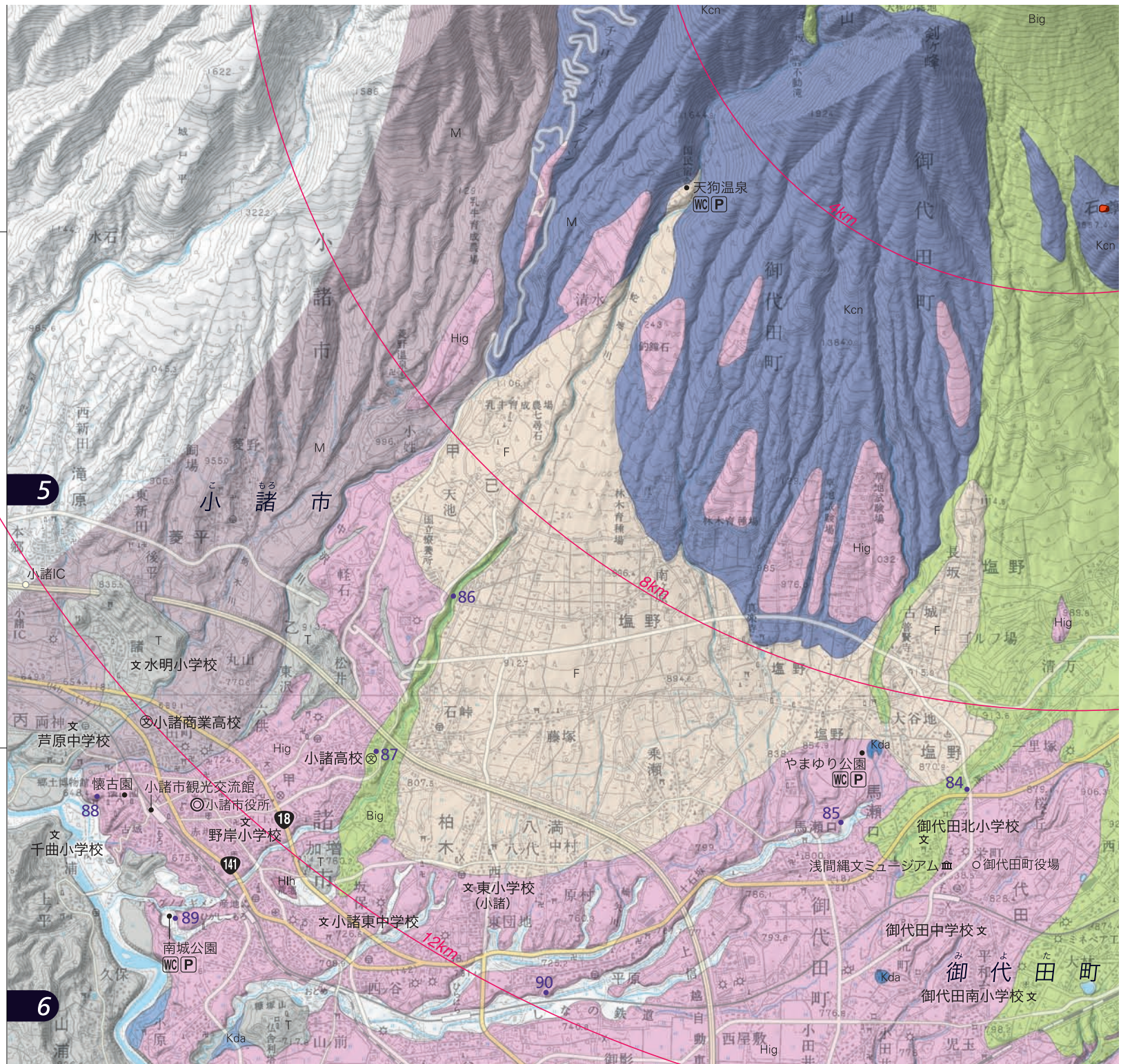




2

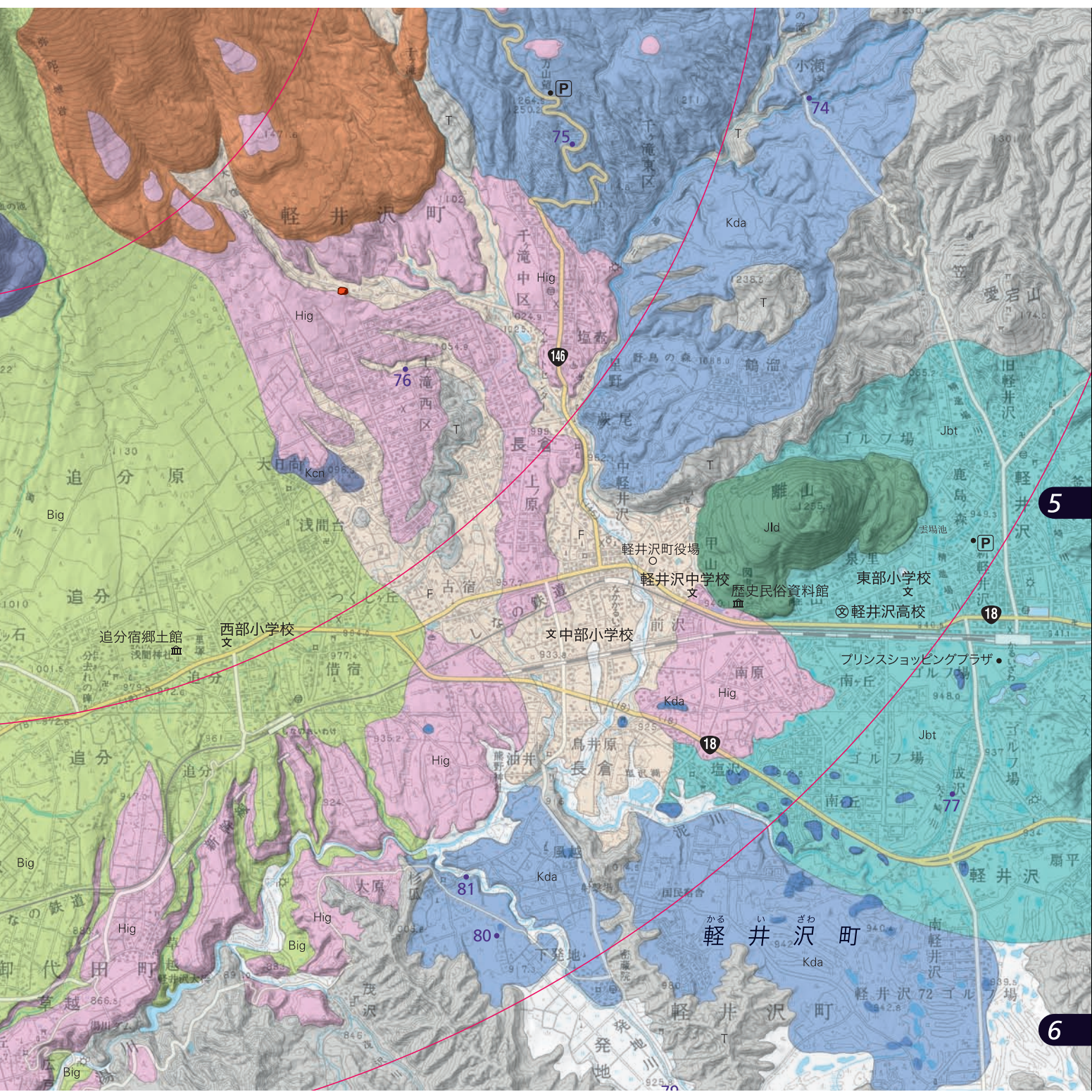
3

4



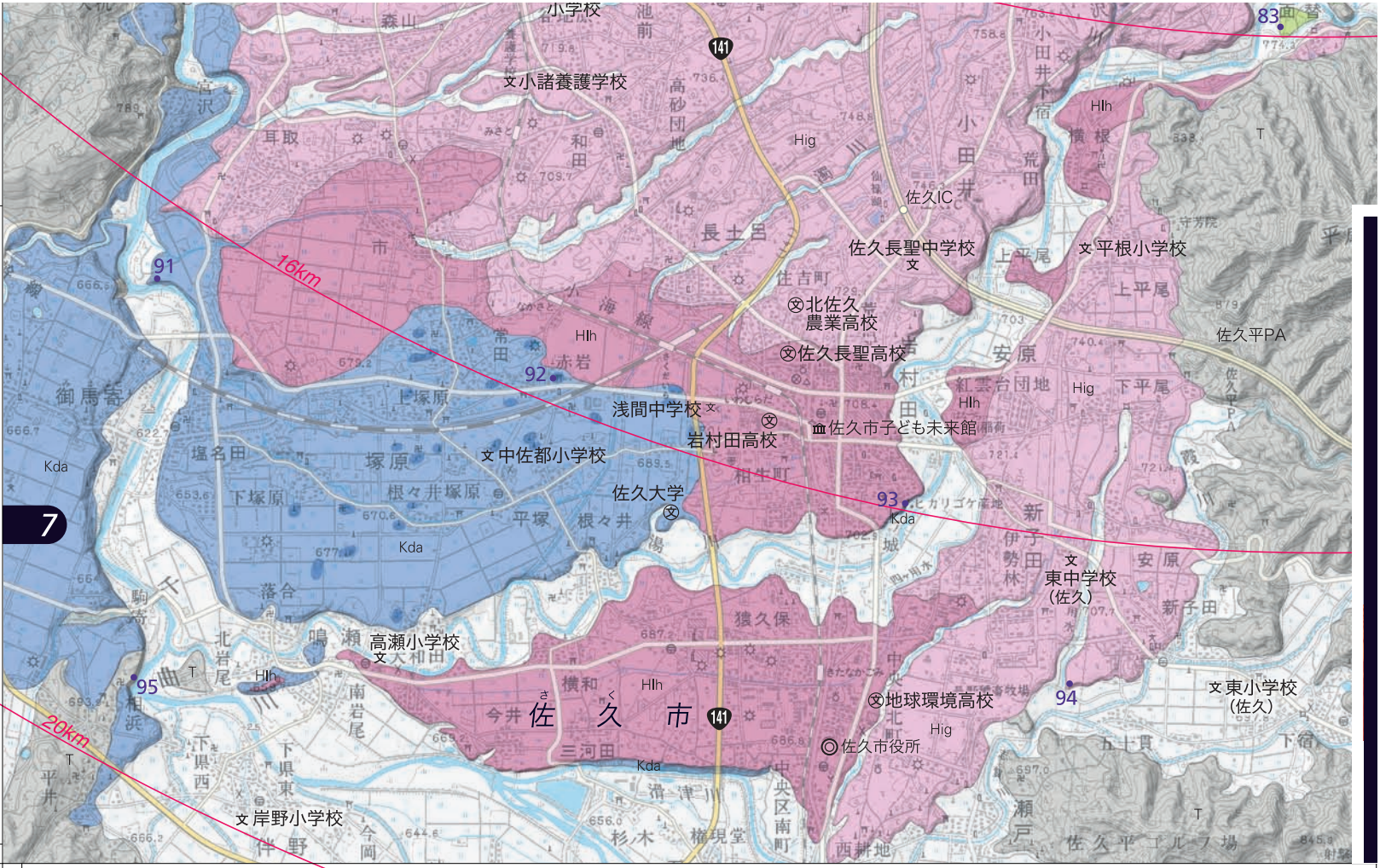
5

6



5

6



7

16km

20km

91

92

93

94

95

141

83

141



この地質図の電子ファイルを、地学用語解説などの付帯情報とともにインターネットで公開しています。
<http://www.edu.gunma-u.ac.jp/~hayakawa/asamap/print.html>

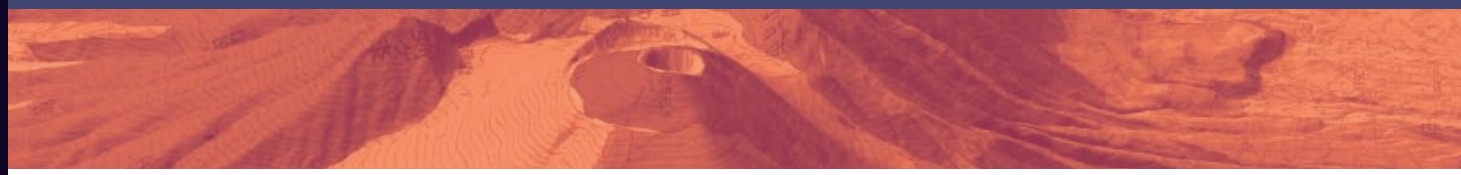
Geological Map of Asama Volcano
1:50,000

浅間山の噴火地図 1:50,000

早川由紀夫

Geological Map of Asama Volcano 1:50,000

Yukio Hayakawa



風景に書き込まれた歴史を読み解くシリーズ フィールドガイド・鳥瞰図つき 定価：本体500円(税別)

